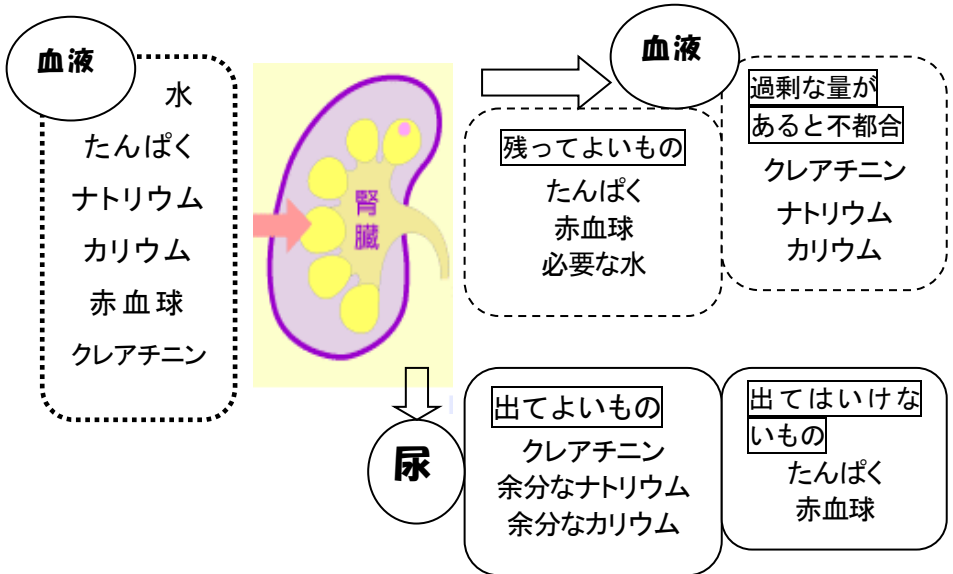


慢性腎臓病は私たちの生活をおびやかす！

自覚症状がないため、ほとんど気づかない。

腎臓には、身体に必要なものを体内に残し、不必要なものを尿として体外に排出する役割があります。



慢性腎臓病の早期発見のため、特定健診に「血清クレアチニン値」と「eGFR(推定糸球体ろ過量)」が加わりました。

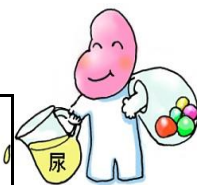
慢性腎臓病ってなに？

①か②のいずれかが3ヶ月以上持続した状態

①尿たんぱく陽性など、腎臓の障害がある

②eGFRが60以下に低下している

尿たんぱく検査



基準値	腎臓の血液をろ過し、老廃物を排泄する機能に異常が生じると、 <u>本来尿中</u> に <u>でることのないたんぱく</u> が漏れだします。
陰性 (-)	

血清クレアチニン値

基準値		血液中の老廃物のひとつで、通常、腎臓でろ過されほとんど尿中に排泄されます。 腎機能が低下していると、 <u>排泄されず血液中に蓄積</u> されます。
男性 1.00mg/ dl 以下	女性 0.70mg/ dl 以下	

eGFR(推定糸球体ろ過量)は腎機能を知る指標！

eGFRは血清クレアチニン値と性別・年齢から計算した値。腎臓の機能が低下しても、初期では自覚症状はなく、慢性的に症状が進行し発見が遅れる可能性があります。

腎機能の重症化を防ぐことは、透析を回避し、脳血管疾患や心疾患などの発病を阻止することにつながります。

e GFR	腎臓機能の状態	
90以上	正常	翌年の健診にて経過をみてください。
60～89	軽度低下	
30～59	中等度低下	<u>50未満</u> のかたは医療機関の受診が必要です。
15～29	高度低下	
15未満	腎不全の疑い	